

別表第1 評価領域及び行動プロセスに関する着眼点

※「着眼点」は、職務を遂行する上で通常必要とされる水準を例示したものである。

担当部長（司書）

評価領域	着眼点
I (※)	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の方針や上司の指示に沿って、担当業務を的確に処理している。 ・生徒の実態やニーズを踏まえた図書館運営を積極的に推進している。 ・教育活動を円滑に行うため、関係機関、保護者、家庭、地域等との連携を図っている。 ・前例にとらわれない新たな視点・柔軟な発想やコスト意識などの経営感覚を持って職務を行っている。 ・職務に関する情報を、様々な角度から比較・評価し、状況に応じて取捨選択している。 ・担当業務に関する十分な知識や基本的なノウハウを有し、豊富で幅広い情報を得て活用している。 ・司書職員の指導・育成に努めている。 <p>(ネットワーク中心校)</p>
II (※)	<ul style="list-style-type: none"> ・相互貸借・共同事業などネットワーク活動が円滑に行われるよう、積極的に調整等に努めている。 ・ネットワーク活動の活性化や課題解決を図るため、共通理解を深めながらチームワークづくりを推進し、組織的、計画的に取り組んでいる。 ・目標達成のため、具体的な方針を明示し、迅速・的確な指示を行うなど、リーダーシップを発揮している。
III その他の校務	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の一員として、管理職や他の職員と共通理解を深めながらチームワークづくりを推進し、学校運営に貢献している。 ・校務分掌の意義や自らの役割を理解し、適切な活動を展開し、責任を果たしている。 ・分掌等の課題について改善策を示すなど、学校運営に参画している。 ・公務員としての高い倫理感と自覚を持ち、規律の遵守や公正を重んじた行動をとっている。

※ I 及びII の評価領域には、担当する事務分掌の中から主なものを2つ設定する。